

東京医科歯科大学における育児支援の状況について

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野

助教 茂木瑞穂

本学は、国立大学の中でも医療系の学部しかない特殊な環境です。したがって、他業種と異なり、医療や研究に従事する女性が何を必要とし、何を構築していこうとしているのかがよくわかるロールモデルになりえるかもしれません。しかし、現在、システムの構築中ですので、参考になる段階ではありません。また、都市部ということもあり、地方とは保育におけるニーズが異なることを念頭に置いていただければ幸いです。

1、 身分における産休・育休の取得環境

① 教員

助教以上。助教の任期は3年。産休・育休ともに取得可能。育休は原則1歳の誕生日まで。また、育休中は、代替助教の雇用が可能（ただし、産休中はなし）。

② 医員

4日/週の非常勤有給職。1年ごとに更新。産休のみ取得可能。

③ 大学院生

3ヶ月以内の休学なら、休学願は不要。すなわち、労働基準法の産休（産前6週間、産後8週間）と同期間休むのならば休学しなければならないが、産前産後併せて12週間で復帰すれば休学不要。

④ 専攻生

学費を払っている。分野に所属しているため、休みに関しては分野内内規による。

2、 本大学内での育児支援

文部科学省科学技術振興調節費「女性研究者支援モデル育成事業」のうち、H20年～22年の3年間、本大学は「女性研究者への革新的支援」事業が採択されました。これにともない、女性研究者支援室が立ち上がり、特任教授をはじめ数名の専任スタッフがいます。また、H22年4月には学内保育園が設立されました。東大や他の総合国立大学からみると、かなり遅れをとっていますが、素晴らしい第一歩と言えるでしょう。ただ、都市部のため、満員電車で子供を乗せて出勤するわけにはいかないので、定員割れをしているのが現状です。都市型保育のあり方を考える時期なのかもしれません。その他に、在宅での研究支援システムの構築、研究支援員の配備事業なども行っていました。国からの事業支援は終了しましたが、大学内での事業の継続が決まりましたので、ご興味がある方は、HPを見てください。他大学の保育環境（東京女子医大のワークシェアリングなど）や3年間の成果も掲載されています。

(女性研究者支援室 <http://www.tmd.ac.jp/mri/ang/>)

3、 関東での保育事業

① 認可保育園

皆さんがご存知のとおり、認可保育園は待機児童で溢れています。ただ、様々な勤務形態で働いている方がいますので、常勤職ですと入園できる方が多いようです。

② 無認可保育園

関東では、様々な形態の保育園があります。入園前には見学をお勧めします。24時間保育園から、英語で保育をしてくれる所まで園長の教育方針により様々です。妊娠中に申し込み（仮）ができるところもあります。ちなみに、私がお世話になっている保育園は、キッズクラブ（民間の学童のようなもの）というものが併設されており、小学校の学童に迎えに行ってくれ、その後も預かってくれます。

③ ベビーシッター

- ・ NPO 法人フローレンス (<http://www.florence.or.jp/>)

おそらく、日本で初めての病児保育専門シッター会社です。時間払いではなく、月極なので、利用しない月は掛け捨ての保険のようになります。病院への受診も行ってくれます。都内近郊のみ派遣可能。支援事業中は全額援助でした。

- ・ 社団法人全国ベビーシッター協会 (<http://www.babysitter.or.jp/>)

全国のベビーシッター会社を検索できます。病後児保育をしている会社もあります。早朝深夜の有無などニーズに合わせて選べます。また、大学によっては、財団法人こども未来財団 (<http://www.kodomomiraizaidan.or.jp/>) のシッター割引券が利用できます。パートナーが会社員の場合も利用可能。本学はまだ提携していない。

- ・ ファミリサポートセンター

(http://www.jaaww.or.jp/service/family_support/index.html)

財団法人女性労働協会の事業です。全国のファミサポを検索できます。

④ その他

最近では、保育関連の紹介リーフレットを用意してくれている自治体が大半です。また、情報社会ですので、保育関連のサイトや本（保育園一覧など）がたくさんありますし、年々、保育環境はよくなっていると思います。まずは、出産を考え始めたら、「調べる」ことをお勧めします。

私は、本大学で初めて出産に伴う休職を 1 年間もいただいた 1 人です。昨年度は本学で初めて男性歯科医師が 3 ヶ月の育休を取得しました。他業種から比べるとかなり遅れてはいますが、徐々に大学内でも変わり始めている時代になってきました。これも、全て医局の先生方と家族、保育園の先生方など、周りの方々の理解と協力があったことだと思います。システムが構築されても、それを利用・運用できるかどうかは人間次第なのでから・・・